

地方独立行政法人長崎市立病院機構中期計画（修正案）

※下線部分は修正箇所

委員意見	修正案等																									
<p>【第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置】</p> <p>1 診療機能</p> <p>○救急医療</p> <p>E R型救命救急センターに従事する職員の配置計画と救急搬送人員の目標値を明記した方がよい。</p> <p>夜間救急センターにおける年間 16,000 件の患者の約 8 割は小児である。市民病院が E R型救命救急センターになればかなりの数の小児の受入が必要であると考えられるため、小児救急の体制も考えておく必要がある。</p> <p>【第3回評価委員会提出 中期計画（案）】</p> <p>ア 救急医療</p> <p>二次救急医療機関として、地域の医療機関や消防局との連携を図り、地域住民が安心できる救急医療体制の充実を図る。</p> <p>新市立病院においては、E R型救命救急センターを整備し、軽症救急患者から緊急手術等を必要とする重症・重篤な患者に救急医療を提供できる体制を整える。</p> <p>[実績値] (単位：人)</p> <table border="1" data-bbox="168 1273 1070 1410"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指 標</th> <th colspan="3">平成 22 年実績値 (暦年)</th> </tr> <tr> <th>市民病院</th> <th>成人病センター</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急搬送人数</td> <td>1,792</td> <td>285</td> <td>2,077</td> </tr> </tbody> </table>	指 標	平成 22 年実績値 (暦年)			市民病院	成人病センター	合計	救急搬送人数	1,792	285	2,077	<p>○平成 27 年救急搬送人員目標値を 3,000 人とする。</p> <p>【中期計画の修正案】 (中期計画（修正案）P 1、対照表 P 2)</p> <p>[実績値] (単位：人)</p> <table border="1" data-bbox="1205 1034 2116 1267"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指 標</th> <th colspan="2">平成 22 年実績値 (暦年)</th> <th rowspan="2">平成 27 年目標値 (暦年)</th> </tr> <tr> <th>病 院</th> <th>人 数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">救急搬送人数</td> <td>市 民 病 院</td> <td>1,792</td> <td rowspan="3">3,000</td> </tr> <tr> <td>成人病センター</td> <td>285</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>2,077</td> </tr> </tbody> </table>	指 標	平成 22 年実績値 (暦年)		平成 27 年目標値 (暦年)	病 院	人 数	救急搬送人数	市 民 病 院	1,792	3,000	成人病センター	285	合 計	2,077
指 標		平成 22 年実績値 (暦年)																								
	市民病院	成人病センター	合計																							
救急搬送人数	1,792	285	2,077																							
指 標	平成 22 年実績値 (暦年)		平成 27 年目標値 (暦年)																							
	病 院	人 数																								
救急搬送人数	市 民 病 院	1,792	3,000																							
	成人病センター	285																								
	合 計	2,077																								

第3回地方独立行政法人長崎市立病院機構評価委員会の主な意見と修正案等

委員意見	修正案等								
<p>○小児・周産期医療</p> <p>小児・周産期については、市民病院の考え方をもっと明確に記載してほしい。産科・婦人科は大学だけではなく、市民病院も充実を図ってほしい。</p> <p>【第3回評価委員会提出 中期計画（案）】</p> <p>ウ 小児・周産期医療</p> <p>地域の医療機関との連携及び役割分担を行い、小児・周産期医療を充実させ、住民が安心できる医療体制を整備する。</p> <p>あじさいネット（長崎地域医療連携ネットワークシステム）を活用した周産期情報管理システムの構築を図り、産婦人科、小児科、リハビリ科で情報を共有化し診療を円滑に行うとともに、新生児蘇生法講習会の実施等により、地域の医療機関の医師・助産師の知識と技術習得に貢献する。</p> <p>また、地域の医療機関に対し、産科オープンシステムの普及・啓発を行うことにより利用促進を図る。</p> <p>[実績値（市民病院）]</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 60%;">指 標</th> <th style="width: 40%;">平成 22 年実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>産科オープンシステムの利用回数(回)</td> <td style="text-align: center;">2</td> </tr> </tbody> </table>	指 標	平成 22 年実績値	産科オープンシステムの利用回数(回)	2	<p>【中期計画の修正案】（中期計画（修正案）P 2、対照表 P 5）</p> <p>○ウ 小児・周産期医療</p> <p style="color: red;">地域の医療機関との連携及び役割分担を行い、ハイリスク出産への対応を確実に進めるよう十分な受け入れ体制を整えるとともに、安全な分娩管理と新生児・未熟児医療を行い、住民が安心できる医療体制を整備する。</p> <p>また、周産期に係る情報を関係診療科で共有化し、診療を円滑に行うとともに、地域医療支援病院として、産科オープンシステムや新生児蘇生法講習会の実施等による、地域の医療機関の医師・助産師の知識と技術習得に貢献する。</p> <p style="color: red;">[実績値（市民病院）]</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 60%; text-align: center;">指 標</th> <th style="width: 40%; text-align: center;">平成 22 年実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="color: red;">産科オープンシステムの利用回数(回)</td> <td style="text-align: center; color: red;">2</td> </tr> </tbody> </table>	指 標	平成 22 年実績値	産科オープンシステムの利用回数(回)	2
指 標	平成 22 年実績値								
産科オープンシステムの利用回数(回)	2								
指 標	平成 22 年実績値								
産科オープンシステムの利用回数(回)	2								

第3回地方独立行政法人長崎市立病院機構評価委員会の主な意見と修正案等

委員意見	修正案等
<p>○地域医療支援病院の機能向上</p> <p>地域連携を上手く行うためにも、逆紹介率の目標値をもっと上げて、地域の医療機関との連携をさらに積極的に行うといったことがわかるようにした方がよい。</p> <p>地域のネットワークを構築するということが記載されているが、もっと具体的な項目を掲げたほうがよい。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p>【第3回評価委員会提出 中期計画（案）】</p> <p>ア 地域医療支援病院の機能向上</p> <p>地域の医療機関との連携を密にし、紹介患者に対する医療を適切に行うとともに、<u>積極的に逆紹介を行い</u>、地域一体となった診療に取り組む。</p> <p>また、地域の医療水準の向上等の観点から、高度医療機器の共同利用の促進、開放型病床<u>及び治療施設の提供</u>、地域の医療従事者を対象とした研修会の開催等を積極的に行う。</p> <p>さらに、入院患者が在宅医療に円滑に移行できるように、退院時スクリーニングシート、退院時共同指導の取り組み等を強化し、地域の医療機関と連携して患者及び家族とともに考え支援する切れ目のない体制をさらに充実する。</p> <p>特に、高齢化社会の対応としては、増加傾向にある救急医療に新市立病院として受け入れ体制を整えるとともに、急性期治療完了後は、リハビリテーションを兼ねた治療が不可欠となることから、<u>亜急性期又は慢性期の高齢者医療における地域医療ネットワークを構築する</u>。</p> </div>	<p>【中期計画の修正案】（中期計画（修正案）P3、対照表P6）</p> <p>○ア 地域医療支援病院の機能向上</p> <p>地域の医療機関との連携を密にし、紹介患者に対する医療を適切に行うとともに、<u>積極的に逆紹介と治療に関する情報提供を行うことで</u>、地域一体となった診療に取り組む。</p> <p><u>併せて</u>、地域の医療水準の向上等の観点から、高度医療機器の共同利用の促進、開放型病床の提供、地域の医療従事者を対象とした研修会の開催等を積極的に行う。</p> <p><u>また</u>、入院患者が在宅医療に円滑に移行できるように、退院時スクリーニングシート、退院時共同指導の取り組み等を強化し、地域の医療機関と連携して患者及び家族とともに考え支援する切れ目のない<u>診療</u>体制をさらに充実する。</p> <p>特に、高齢化社会の対応としては、増加傾向にある<u>救急医療に対し</u>、新市立病院として受け入れ体制を整えるとともに、急性期治療完了後は、リハビリテーションを兼ねた治療が不可欠となることから、<u>地域の医療機関と連携して</u>亜急性期又は慢性期の高齢者<u>の円滑な治療が行えるよう</u>地域医療ネットワークを構築する。</p> <p style="text-align: center;">※地域医療支援病院要件による紹介率・逆紹介率の算定式</p> $\text{紹介率 (\%)} = \frac{\text{紹介患者数} + \text{緊急入院患者数}}{\text{初診患者数} - \text{時間外未紹介患者数}} \times 100$ $\text{逆紹介率 (\%)} = \frac{\text{逆紹介数}}{\text{初診患者数} - \text{時間外未紹介患者数}} \times 100$

第3回地方独立行政法人長崎市立病院機構評価委員会の主な意見と修正案等

(参考：地域医療支援病院紹介率算定数値)

項 目	平成21年度	平成22年度
①初診患者数(初診料算定患者数)	14,310	14,999
②紹介患者数	5,918	6,107
③救急患者数(紹介状ありを除く) (④+⑤)	5,253	5,576
④緊急入院患者数	2,957	3,247
⑤時間外未紹介患者数	2,296	2,329
⑥紹介率(%)	73.9%	76.9%
⑦逆紹介数	6,073	5,820
⑧逆紹介率(%)	50.5%	47.8%

紹介率算定式

$$\text{⑧逆紹介率(％)} = \frac{\text{⑦逆紹介数}}{\text{①初診患者数} - \text{⑤時間外未紹介患者数}} \times 100$$



平成22年度逆紹介率

$$\text{⑧ } 47.8\% = \frac{\text{⑦ } 5,820}{\text{① } 14,999 - \text{⑤ } 2,329} \times 100$$

第3回地方独立行政法人長崎市立病院機構評価委員会の主な意見と修正案等

委員意見	修正案等
<p>○医療安全対策の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 患者側に立つ専任の職員を配置したほうがよい。 ・ 医療事故調査委員会についても記載したほうがよい。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p>【第3回評価委員会提出 中期計画（案）】</p> <p>イ 医療安全対策の充実</p> <p>医療安全管理者を中心として、<u>ヒヤリハット事例など医療安全に係る情報の収集・分析及び結果の検証を行い、さらなる医療安全対策の充実を図る。</u></p> <p>医療安全管理マニュアル、針刺し損傷マニュアル等の各種マニュアルを適宜、更新・改定するとともに、全職員が医療安全に対する知識の向上に努めるため、医療安全研修を充実させる。</p> <p>高齢入院患者の増加に伴い、転倒・転落プロジェクトチーム等を立ち上げるなどさらなる医療安全対策を<u>実施する</u>。</p> <p>医薬品の安全管理に係る管理体制及び薬剤管理指導の充実を図り、患者に適切な情報提供を行う。</p> </div>	<p>【中期計画の修正案】 （中期計画（修正案）P4、対照表P10）</p> <p>○イ 医療安全対策の充実</p> <p>医療安全管理者を中心として、<u>医療安全委員会において定期的に</u>ヒヤリハット事例など医療安全に係る情報の収集・分析及び結果の検証を行うとともに、<u>医療事故については、医療事故調査委員会において十分な検証を行い、</u>さらなる医療安全対策の充実を図る。</p> <p>医療安全管理マニュアル、針刺し損傷マニュアル等の各種マニュアルを適宜、更新・改定するとともに、全職員が医療安全に対する知識の向上に努めるため、医療安全研修を充実させる。</p> <p>高齢入院患者の増加に伴い、転倒・転落プロジェクトチーム等を立ち上げるなどさらなる医療安全対策を<u>講じる</u>。</p> <p>医薬品の安全管理に係る管理体制及び薬剤管理指導の充実を図り、患者に適切な情報提供を行う。</p> <p><u>医療機関として患者に真摯な対応を行うために、院内において病院側と患者側の対話の橋渡しを行う院内医療メディエーター（医療対話仲介者）の導入等を検討する。</u></p>

第3回地方独立行政法人長崎市立病院機構評価委員会の主な意見と修正案等

委員意見	修正案等
<p>○院内感染防止対策の実施 院内感染を担当する医師・看護師のスキルアップが一番大事である。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【第3回評価委員会提出 中期計画（案）】</p> <p>ウ 院内感染防止対策の実施 院内感染防止に関する対策委員会及び研修会を<u>実施し、院内感染防止に関する教育、訓練及び啓発を徹底するとともに、問題点を把握し改善策を講ずる等院内感染防止対策を確実に実施する。</u> また、院内感染防止に関するマニュアルを適宜見直し、職員に周知・啓発を図るとともに、院内感染が発生した場合は、マニュアル等に基づき適切に行動できる体制を整える。</p> </div>	<p>【中期計画の修正案】 （中期計画（修正案）P5、対照表P11）</p> <p>○ウ 院内感染防止対策の実施 院内感染防止に関する対策委員会及び研修会を<u>実施することにより、院内感染防止に関する教育、訓練及び啓発を徹底し、医師をはじめとした医療スタッフの知識等の向上を図るとともに、問題点を把握し改善策を講ずる等院内感染防止対策を確実に実施する。</u> また、院内感染防止に関するマニュアルを適宜見直し、職員に周知・啓発を図るとともに、院内感染が発生した場合は、マニュアル等に基づき適切に行動できる体制を整える。</p>
<p>住民・患者サービス</p> <p>○患者アンケート（(1) 患者中心の医療の提供） 外部のコンサルに委託するなどして、定期的に調査するなど効果を追求するような色々な方法も検討してみてもどうか。</p>	<p>【運用】 （中期計画（修正案）P7、対照表P16） アンケートの手法については検討する。</p>
<p>○まち時間の改善（(3) 患者ニーズへの対応の迅速化） 急性期等を扱う大きな病院になってくると、その日のうちに検査から診断までを行うため、待ち時間はどうしても長くなると思われる。 時間がかかるということを患者に納得してもらう説明を行うか、時間がなければまた来てもらうようにすればよいのではないか。</p>	<p>【運用】 （中期計画（修正案）P7、対照表P18） 患者説明も行いながら、まち時間の改善にも取り組む。</p>

第3回地方独立行政法人長崎市立病院機構評価委員会の主な意見と修正案等

委員意見	修正案等
<p>○職員の接遇向上</p> <p>研修の開催だけでなく、外部から接遇状況を見て回る人を導入し、それに対し院長が積極的に介入する等を行ったほうがよい。外部から現場を見て回る等を行った方がより効果があるため、そういったことも検討してはどうか。</p>	
<p>【第3回評価委員会提出 中期計画（案）】</p> <p>(4) 職員の接遇向上</p> <p>患者、地域住民から信頼される病院であり続けるため、職員一人ひとりが周囲の人を癒す気持ちを持ち続けるとともに、<u>患者の立場に立った接遇の実践ができるよう接遇研修を充実し、病院全体の接遇の向上に努める。</u></p>	<p>【中期計画の修正案】 （中期計画（修正案）P8、対照表P19）</p> <p>(4) 職員の接遇向上</p> <p>患者、地域住民から信頼される病院であり続けるため、職員一人ひとりが周囲の人を癒す気持ちを持ち続けるとともに、個々の職員はもとより、病院全体で患者の立場に立った接遇の実践ができるよう接遇研修を充実し、職員の意識改革とその保持に努める。</p> <p>また、研修だけではなく、職員の接遇について現場の状況を管理・監督する体制を整える。</p>

第3回地方独立行政法人長崎市立病院機構評価委員会の主な意見と修正案等

委員意見	修正案等
<p>○ボランティアとの協働</p> <p>ボランティアについては、患者の生活の質の向上の取り組みであると思うため、案内等のボランティアとレクリエーションを行うボランティアに区別をし、ボランティアの方がどういったことをやりたいのかをコーディネートする人材が必要。ボランティアは、広報ながさきで募集するだけではなく、NPO団体等への呼びかけを行ってほしい。</p> <p>【第3回評価委員会提出 中期計画（案）】</p> <p>(5) ボランティアとの協働</p> <p>市民病院においては、<u>ボランティア活動が行いやすい環境を整備し、自立した活動ができるボランティアチームの形成を図り、患者サービスの向上に繋がる協働体制を構築する。</u></p> <p>成人病センターにおいては、新たにボランティアの導入を行い、患者サービスの向上に繋がる協働体制を構築する。</p>	<p>【中期計画の修正案】 （中期計画（修正案）P8、対照表P20）</p> <p>2 住民・患者サービス</p> <p>(5) ボランティアとの協働</p> <p>市民病院においては、<u>多種多様なボランティアが活動しやすい環境を整備するとともに、ボランティア同士の役割分担を行って自立した活動ができるよう</u>、患者サービスの向上に繋がる協働体制を構築する。</p> <p>成人病センターにおいては、新たにボランティアの導入を行い、患者サービスの向上に繋がる協働体制を構築する。</p>

第3回地方独立行政法人長崎市立病院機構評価委員会の主な意見と修正案等

委員意見	修正案等
<p>マグネットホスピタルとしての機能</p> <p>○マグネットホスピタルとしての機能</p> <p>市立病院に医師を集めるだけでなく、地域医療を活性化するために、市立病院で医師を育て地域へ医師を派遣できるような体制をとれないか。</p> <p>⇒[事務局答弁] 意見を踏まえたうえで検討したい。</p>	<p>【運用】 (中期計画(修正案) P 8、対照表 P 2 1)</p> <p>市立病院が医師を派遣するような体制については、新市立病院として全面完成し、運営を実施していく中で検討していきたい。</p>
<p>○マグネットホスピタルとしての機能</p> <p>女医が非常に多くなってきており、大学病院は、家庭に戻った女医の方を再教育しながら麻酔科等で入ってもらっている。市民病院としても、医師を集めなければならない中で医師が集まる何かを打ち出していくとよい。</p>	<p>【運用】 (中期計画(修正案) P 8、対照表 P 2 1)</p> <p>現在も、麻酔科の医師については、短時間勤務の雇用を行っており、今後も柔軟な勤務体制等により医師確保を図っていきたいと考えている。</p>

第3回地方独立行政法人長崎市立病院機構評価委員会の主な意見と修正案等

委員意見	修正案等
<p>○研修事業の強化（看護師の育成・教育等）</p> <p>中期計画の中でも良いと思うが、新人看護師臨床研修制度が法律上も明記されたので、新人看護職員の研修について明記してほしい。</p> <p>看護師を多数採用することが決定しているので、今後の新人の教育をどうするのか、医療従事者の育成・教育、環境整備について明記したほうがよい。</p> <p>新人看護師の研修については看護部だけではなく病院を挙げて行ってもらいたい。</p> <p>⇒[事務局答弁] 中期計画の中で記載を検討したい。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【第3回評価委員会提出 中期計画（案）】</p> <p>3 ホスピタルとしての機能</p> <p>(2) 医療スタッフの育成</p> <p>ア 研究・研修事業の強化</p> <p>○ 研修事業の強化</p> <p>医療職等の専門性の向上を図るため研修制度の充実に努めるとともに、<u>専門研修への参加機会の拡充や、国内外の先進病院への研修を実施するなど、研修事業の強化を図る。</u></p> </div>	<p>【中期計画の修正案】 （中期計画（修正案）P10、対照表P27）</p> <p>3 マグネットホスピタルとしての機能</p> <p>(2) 医療スタッフの育成</p> <p>ア 研究・研修事業の強化</p> <p>○ 研修事業の強化</p> <p><u>医師をはじめとした医療スタッフの専門性の向上を図るため、院内研修の充実はもとより、専門研修への参加機会の拡充や、国内外の先進病院への派遣研修を実施するなど、研修事業の充実に努めるとともに、看護師をはじめとした医療スタッフについては、臨床研修を実施する。</u></p> <p><u>併せて、医療スタッフが研修を受ける機会を確保できるよう職場環境の整備に努める。</u></p> <p><u>また、看護学生、救急救命士等の実習を受け入れるとともに、地域の医療従事者を対象とした研修会の開催により長崎地域医療圏の人材育成及び技術向上に貢献する。</u></p>

第3回地方独立行政法人長崎市立病院機構評価委員会の主な意見と修正案等

委員意見	修正案等
<p>【第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するため取るべき措置】</p> <p>○事務部門のレベルアップ</p> <p>医事部門など、同じ部署に長くいてもキャリアアップができ、職員のモチベーションを向上させるような制度を考えたほうがよい。</p> <p>【第3回評価委員会提出 中期計画（案）】</p> <p>(2) 事務部門のレベルアップ</p> <p>これまで事務職員の短期的な人事異動により、ノウハウの蓄積が困難であったため、事務部門スタッフについては計画的に法人職員の採用を行い、医事業務、物品管理業務等病院事務の専門性の向上を図るため、専任職員の育成を行う。</p>	<p>【運用】</p> <p>キャリアアップが図れるような組織体制を整備する。</p> <p>【中期計画の修正案】 (中期計画（修正案）P12、対照表P31)</p> <p>(2) 事務部門のレベルアップ</p> <p>事務部門のスタッフについては、これまで短期的な人事異動により、ノウハウの蓄積が困難であったため、計画的に専任の職員を採用し、医事業務、物品管理業務等病院事務の専門性の向上を図るため、病院事務の専任職員の育成を行う。</p>

第3回地方独立行政法人長崎市立病院機構評価委員会の主な意見と修正案等

委員意見		修正案等																																			
<p>【第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置】</p> <p>○給与費比率 給与費比率の注意書きで退職手当負担金及び退職給付費用を含めないのはなぜか。</p> <p>【目標値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指 標</th> <th colspan="2">平成22年度実績値</th> <th colspan="2">平成27年度目標値</th> </tr> <tr> <th>市民病院</th> <th>成人病センター</th> <th>市民病院</th> <th>成人病センター</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>給与費比率(%)</td> <td>52.8</td> <td>61.9</td> <td>50.8</td> <td>51.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 給与費比率については、退職手当負担金及び退職給付費用を除いて算定している。</p>		指 標	平成22年度実績値		平成27年度目標値		市民病院	成人病センター	市民病院	成人病センター	給与費比率(%)	52.8	61.9	50.8	51.5	<p>(中期計画(修正案) P13、対照表 P35)</p> <p>○ 従来の退職手当制度は、一部事務組合に加入し平準化された退職手当負担金を納付する制度であったが、独立行政法人化後は、当該制度の対象外となるため、平成22年度実績値と同数値を比較できるように、平成27年度目標値にも退職給付費用を含めていない。</p> <p>なお、退職手当負担金(平成22年度実績値)及び退職給付費用(平成27年度目標値)を含めた給与費率も併せて記載することとした。</p> <p>【中期計画の修正案】</p> <p>【目標値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指 標</th> <th colspan="2">平成22年度実績値</th> <th colspan="2">平成27年度目標値</th> </tr> <tr> <th>市民病院</th> <th>成人病センター</th> <th>市民病院</th> <th>成人病センター</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">給与費比率(%)</td> <td>57.8</td> <td>68.5</td> <td>57.8</td> <td>60.8</td> </tr> <tr> <td>※52.8</td> <td>※61.9</td> <td>※54.8</td> <td>※56.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注1) 給与費比率は、上段に退職手当負担金及び退職給付費用を含んだ給与費比率を、下段に除いた給与費比率を記載している。</p>				指 標	平成22年度実績値		平成27年度目標値		市民病院	成人病センター	市民病院	成人病センター	給与費比率(%)	57.8	68.5	57.8	60.8	※52.8	※61.9	※54.8	※56.6
指 標	平成22年度実績値		平成27年度目標値																																		
	市民病院	成人病センター	市民病院	成人病センター																																	
給与費比率(%)	52.8	61.9	50.8	51.5																																	
指 標	平成22年度実績値		平成27年度目標値																																		
	市民病院	成人病センター	市民病院	成人病センター																																	
給与費比率(%)	57.8	68.5	57.8	60.8																																	
	※52.8	※61.9	※54.8	※56.6																																	

第3回地方独立行政法人長崎市立病院機構評価委員会の主な意見と修正案等

委員意見	修正案等
<p>○職員の経営状況の理解</p> <p>医業外収益等の見方など具体的な見方や現状を職員に周知することで、職員一人ひとりの仕事に対する考え方もかわってくるのではないかと。</p> <p>【第9 剰余金の使途】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員への手当にも充てられるようにしてはどうか。 ・剰余金は、民間においては組織の体質を良くするために充てている。大学等も職員の育成や定着のために充てている。 ・剰余金については、使ってしまうのではなく債務償還に充てるといったことはできないのか。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【第3回評価委員会提出 中期計画（案）】</p> <p>第9 剰余金の使途</p> <p>決算において剰余を生じた場合は、病院施設の整備、医療機器の購入、教育・研修体制の充実等に充てる。</p> </div>	<p>【運用】</p> <p>○ 経営状況等について、職員に対しても周知に努める。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>第4 財務内容の改善に関する目標を達成するため取るべき措置</p> <p>持続可能な経営基盤の確立（抜粋）</p> <p>また、職員の病院運営に対する意識を醸成するため経営情報の定期的な提供を行うとともに、部門ごとに具体的な目標を設定し、その達成状況を適宜確認するなど経営管理を徹底する。</p> </div> <p>【中期計画の修正案】（中期計画（修正案）P17、対照表P41）</p> <p>第9 剰余金の使途</p> <p>決算において剰余を生じた場合は、病院施設の整備、医療機器の購入、教育・研修体制の充実、<u>組織運営の向上策等</u>に充てる。</p>